

平成27年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

ウリソツクラブ ～ウーリークラブ卒業ファミリーの会～

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

ウーリークラブに参加した家族が、継続して「子育て」の情報交換を行ったり、畑作業を通じて交流し、自然や食への関心を高めたりすることで、吉備の自然を活かした子育てを提案する。

2. 事業の概要

(1) 期日

第1回	5月10日（日）	日帰り	
第2回	7月11日（土）	日帰り	
第3回	9月6日（日）	日帰り	
第4回	11月8日（日）	日帰り	
第5回	11月28日（土）～29日（日）	自主企画	1泊2日
第6回	3月12日（土）～13日（日）	自主企画	1泊2日

(2) 参加者

① 募集対象・人数

平成25年度・26年度のウーリークラブ参加家族 30家族

② 参加人数

登録人数	87人	22家族
第1回	36人	10家族
第2回	43人	14家族
第3回	54人	15家族
第4回	28人	8家族
第5回	21人	6家族
第6回	30人	9家族

(3) 企画・運営のポイント

- ① 「畑作り」と「収穫」の2つの作業を毎回行うことで、食への興味・関心を高められるよう設定した。
- ② ネイチャーゲームなど自然と触れ合う機会を多く作り、自然への畏敬の念を持てるようにした。
- ③ 事業として2年目を迎え、参加者による自主企画事業の実施を提案し、参加者の中から「自主企画委員」を公募し、参加家族中心の事業が展開できるよう、自主企画委員の着想・考えの具現化を支援し、テーマを設定した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

第1回 5月10日(日)		第2回 7月11日(土)	
10:00	受付	10:00	受付
11:00	お久しぶりの会	10:15	お久しぶりの会
12:00	昼食(お弁当)	10:45	畑仕事
13:00	農作業	11:15	野外調理 (トマトライス・ミネストローネ)
15:00	またねの会・解散	14:00	ウリソツワークショップ
		15:00	またねの会・解散

第3回 9月6日(日)		第4回 11月8日(日)	
10:00	受付	10:00	受付
11:00	お久しぶりの会	10:15	お久しぶりの会
10:45	野外調理(ミニピザ作り)	10:45	野外調理(ぜんざい) (昼食[持参弁当等]も含む)
13:30	ポテトチップス作り	14:00	ウリソツワークショップ
15:00	またねの会・解散	15:00	またねの会・解散

11月28日(土)～29日(日)(自主企画①) テーマ「自然の中で本気遊び！」			
10:00	受付	7:45	朝のつどい
10:30	森のスタジアム	8:00	朝食
12:00	昼食	9:00	掃除
13:30	ハイキング	9:30	点検・テント撤収
14:30	テント設営	10:30	野外調理(すき焼き)
17:15	夕べのつどい	14:00	またねの会・解散
17:30	夕食		
19:00	ナイトハイク		
20:30	入浴・就寝		

3月12日(土)～13日(日)(自主企画②) テーマ「チャレンジと達成感」			
10:00	受付	7:45	朝のつどい
10:30	ペットボトルランタン作り	8:00	朝食
12:00	昼食	9:00	逃走中
13:00	ツリーイング	12:15	昼食
17:15	夕べのつどい	13:15	おやつ作り (ウーリークラブとの合同活動)
17:30	夕食		
18:30	ナイトハイク	15:00	解散
20:00	入浴・就寝		

(2) 活動の状況



【お久しぶりの会 5/10】



【畑作業 5/10】



【苗植え 5/10】



【ミニトマトの収穫 7/11】



【野外調理 9/6】



【シュラフの準備(自主企画) 11/28】



【テント泊(自主企画) 11/28】



【野外調理(自主企画) 11/29】



【すき焼き(自主企画) 11/29】



【焼きマシュマロ(自主企画) 3/13】



【逃走中(自主企画) 3/13】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① ウーリークラブの時の仲間と会えるのを楽しみにしていました。
- ② まず自分でやってみて、チャレンジすることや自然に触れさせることを子供にさせたいです。
- ③ 「行きたくない」と言っていた子供が他の子たちやボランティアの方と泥まみれになって遊んでいるのが心から良かったと思います。
- ④ いつもは食事を全部食べられない子がぺろりと全部食べたのに驚きました。
- ⑤ 参加されている方がみんな同じような体験を求めているのが分かりました。イベントを開くと楽しそうです。
- ⑥ 自主企画について

子供同士のトラブルへの対応も、話し合いを持って、教育的観点で対応し、本人の成長を促すような対応をされたことについて、そこまで考えて接して下さっている事に感激しました。これからも、自然の家と関わりながら子育てをしていきたいと思ったし、自分も参加している子供たちに対してそういう視点で接していけたらと感じました。

(3) 成果

- ① 野外調理をすることで食に対する関心を高めることができた。
ダッチオーブンを使用した調理を行うことで、様々な調理方法を知り、自主企画の際の野外調理の内容を決める際に参考になり、普段の野外調理ではあまり考えないような案が出るきっかけとなった。
- ② 参加者が参加する側から主体的に思考できるようになった。
第2回のウリソツクラブでこれからの運営についてワークショップをしたことで、参加者に主体的な考え方が生まれた。
- ③ 参加者の代表が中心になって自主企画事業を2回実施した。
参加者が自主企画委員会を立ち上げ、事前に自然の家で会議を行い、1泊2日の自主企画を実施した。1回目は当日の運営を実施し、2回目は体験活動の企画立案から行った。
- ④ 自然農が2年目を迎えたことで、自主農園をする参加者が出てきた。
2家族が空いたスペースを使って自分たちで作物を持ち込んで自然農を実践した。

(4) 今後の課題

- ① 農園について自然農で多くのことを学ぶことができた。ウリソツクラブメンバーの居場所の一つとすべく、農園スペースの有効活用を考える必要がある。
- ② 自主企画事業について、どのような運営をしていくのかを明確にして参加者に伝え、参加者がスムーズに運営側に入ることができ、自主運営へ向かうことができるようサポートしていきたい。

担当：企画指導専門職付 黒田 雅秀